

コロナ禍に気付かされたこと

第6組 聞得寺 浅井 はるみ

昨年より猛威をふるっている新型コロナウイルスにより、私たちの生活スタイルが変わりつつあります。

現在は、コロナ感染者が増え緊急事態になっています。昨年からちょうど一年、私たちは何を学んだのでしょうか？

昨年の春、第一波の時、有名人が亡くなることで、感染したら死ぬウイルスであると教えられ、後遺症で苦しむウイルスであることも学びました。感染者であることを特定され、その地域に住めず引っ越しを余儀なくされた方々もいました。

私たちは、新型コロナウイルス感染が急速に拡大し変化する世の中の状況に、自分自身を見失いがちで、差別や格差などの問題により無意識になっています。

昨年の岐阜別院の報恩講で池田勇諦先生が「コロナ禍になり真宗がもっと大切なものになりました。立ち位置がはっきりとしてきました」と言われました。

私たちは、何もないときは「自分で生きている」と自分が中心になっていますが、コロナ禍になり自分の思いが通らなくなって初めて「生きている」のではなく「生かされている」のだと気付かされました。どこまでも煩惱いっぱいの生活のなかから、人間として生きる大切な意味を、阿弥陀如来の本願として与えられ

ているのではないのでしょうか？